



【巻頭言】

日本ブドウ・ワイン学会2024札幌大会に寄せて

曾根 輝雄

北海道大学大学院農学研究院 教授
北海道ワイン教育研究センター センター長

On the Occasion of ASEV JAPAN 2024 Annual Meeting in SAPPORO

Teruo SONE

Research Faculty of Agriculture, and Center of Education and Research for Hokkaido Wines
Hokkaido University

日本ブドウ・ワイン学会2024札幌大会が、北海道大学にて開催されることになりました。以前に札幌にて開催されたのは実に10年前の2014年のことでした。北海道のワイン産業はこの10年間で大きく進歩しました。2014年大会開催時、北海道のワイナリー数は22件でしたが、本稿を執筆している2024年4月現在は64件と3倍に伸びました。大会開催後の2015年から北海道が「ワイン塾」「北海道ワインアカデミー」に取り組みはじめ、2018年6月には、ワインとしては日本で2番目の地理的表示「GI北海道」が認められました。2021年には北海道大学に寄附講座「北海道ワインのヌーヴェルヴァーグ研究室」、翌年には「北海道ワイン教育研究センター」が開設され、北海道庁や各研究機関、大学等からなるワイン産業支援組織「北海道—ワインプラットフォーム」の設立とともに、北海道のワイン振興に北海道庁や各自治体、研究機関、大学、生産者が協力しながら取り組む体制が整ってきました。昨年2023年9月には北海道大学内に「北海道大学ワイン教育研究センター」が竣工し、北海道のワイン産業振興の拠点も整備されました。学会員の皆様には是非本大会に足をお運びいただき、この10年の北海道のワイン産業の進歩を感じて頂けたらと思います。

このような変化は北海道だけではなく、日本全国で起こっています。まさに現在は日本ワインブームと言うべき状態で、ワイナリーのない都道府県は全国で1つのみとされています。言わずもがな、ワインは生産地の特徴や個性を最も反映しやすいアルコール飲料であり、日本各地のテロワールがそれぞれのワインの中に込められています。北海道大学でワイン教育研究を行う大きな目的として、ワインの持つ、地域を活性化し持続性を高める力を北海道に活かしたいということがあります。都市に集中した人口や様々な資源を地方に分散させることは、北海道に限らず日本全体の課題であり、我々ワインに携わる者は、ワインの持つ力を信じ、社会に還元していくことが使命と感じます。

ワイナリー数や生産量など、しばしば都道府県単位で国内の順位付けが行われます。確かに先進地を目標とすることは、業界を活性化させる上でのモチベーションになり得ます。しかし、ワイナリーが全国に広がった現在の日本では、業界全体が協力して、ワイン教育研究においても切磋琢磨しつつも力を合わせて、「日本ワイン」の価値を世界レベルへと押しあげつつ、日本の各地域の持続性を高める必要があります。2024札幌大会は、日本のワイン業界

やワイン関連のアカデミアの結束を高める機会とさせて頂きたく，是非とも日本全国からお越しく下さい．皆様のお越しをお待ちしております．